

第4次大阪府子ども読書活動推進計画（概要）

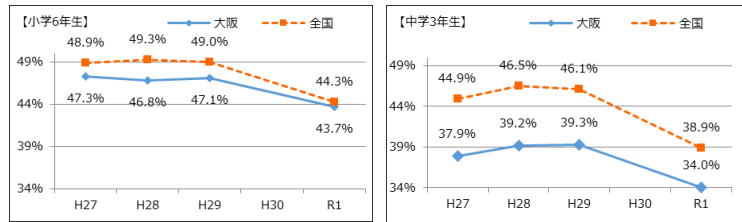
第1章 第4次大阪府子ども読書活動推進計画の策定にあたって

- ◆子どもの読書活動は、「豊かな心」や創造力や表現力等様々な力を育み、社会に出るための基盤を形成するとともに、人生をより深く生きる力を身に付ける上で重要なものであり、子ども一人一人に合った読書活動を行うことができる環境整備の実現に向けて取組む。
- ◆国の読書計画や学習指導要領の改訂などの国の動き、府のこれまでの読書活動の取組、子どもの読書活動を取巻く社会情勢の変化を踏まえる。

第2章 第3次計画の取組結果と課題

第1 第3次計画における取組と成果

- ◆「本と出合うきっかけづくり」「本を読む習慣化」「読む力、考える力の育成」「読書環境を支える体制づくり」の4つの項目を柱に取組を実施。
- ◆成果指標（「読書が好き」な子どもの割合を全国平均以上とする）は達成できなかったが、第3次計画に基づく取組を実施した結果、全国平均との差を縮めることができた。



第2 子どもの読書活動の現状と課題

- ◆「読書をしない」主な理由は以下のとおり（R1 読書調査結果）
 - ・「時間がない」 → 読書時間を確保できない、読書のために時間を割かない
 - ・「読みたい本がない」 → 興味を持てるような本がない
 - ・「読むのがめんどろ」 → 本を読むことが面倒、文字を読むことが苦手
- ◆上記理由の分析結果
 - ・部活や塾などで、読書をする時間がない。
 - ・どの年代も、インターネット利用時間が増加している。
 - ・読書に興味や必要性を感じていない、インターネットでの SNS やゲーム、動画視聴など、興味・関心が他のところに向いていて読書のために時間を割かない中高生が多い。
 - ・本を読むことが面倒、文字を読むことが苦手な子どもが出てくる。
- ◆現状と課題を踏まえた施策の方向性
 - ・読書のために時間を割かない、興味を持てるような本がない、本を読むことが面倒など、発達段階によって異なる理由で読書活動ができていない子どもがいることを踏まえた方策を講じる。
 - ・第3次計画で行った発達段階や生活の場に応じた環境整備を基礎とし、第4次計画では、発達段階ごとの特徴を更に考慮しつつ、子ども一人一人に合った読書活動を進めるための取組を一層拡大する。

第3章 第4次計画の基本方針と重点的な施策

基本方針

発達段階や生活の場に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備をするために、大阪全体で取組む。

視点

1. 発達段階の特徴に沿った読書活動推進
2. 読書活動ができていない（読書のために時間を割かない・興味を持てるような本がない・本を読むことが面倒）子どもへの読書環境整備

読書の位置づけ

読書概念を広く捉え、子どもが発達段階や生活の場の状況に応じて、自分自身に合った読書活動ができるよう「読書」を位置づける。

- ・本を読んだり、読んでもらったり、絵文集を見たり、図表を読み取り活用することも読書である。
- ・紙媒体だけでなく、電子媒体で本を読むことも読書である。
- ・本を一冊全て読むだけでなく、自分の興味や関心のある箇所を読んで知識を得たり心に留めることも読書である。

期間

令和3年度から令和7年度までのおおむね5年間

成果指標

読書のために時間を割かない、興味を持てるような本がない、本を読むことが面倒など、発達段階によって異なる理由で読書活動ができていない子どもを減らすという観点から、不読率の改善を成果指標に掲げる。

少しでも本を読む子どもを増やすことをめざし、計画期間最終年度までに「本を全く読まない子ども」の割合（不読率）を全国平均（令和元年度：小学6年生 18.7%、中学3年生 34.8%※）以下とする。

	小6	中3
全国	18.7%	34.8%
大阪	24.4%	44.8%

※全国学力・学習状況調査結果（文部科学省）による数値

R1 全国学力・学習状況調査結果

取組の柱

	ことばを知り	本にひかれ	本に出会い	本に親しみ	本に学ぶ
めやす	・文字やことばを知る ・ことばを聞きとる	・本で物語を楽しみたい ・本で何かを知りたい、調べたい	・楽しい本と出会う ・新たな発見ができる本と出会う	・読書を身近に捉える ・自らが好きな時に自由に本を読む	・本の内容を読み取る ・必要な情報を活用する
府の取組	子どもが文字・ことばを知るための取組	子どもが本に対して心惹かれるための取組	読書は良いと思える本と出会うための取組	子どもが自ら本を読むようになる取組	読む力、読み取る力、考える力を育成するための取組

発達段階ごとの特徴(次頁)を踏まえ、生活の場(家庭、学校、地域等)において、読書環境の整備のための具体的な方策に取組む

府の重点的な施策

1. 読書活動普及・啓発（えほんのひろば・ビブリオバトル大会等子ども向けイベントの実施、SNS やミニコミ誌を活用した啓発の実施等）
2. 乳幼児の時期の保護者や教育保育施設への読書活動支援（貸出し用図書セットの充実、ボランティア養成講座の実施等）
3. インターネットを活用した取組（府公式 Twitter でのおすすめ本紹介、読書イベントの動画配信等）
4. 支援が必要な子どもへの読書環境づくり（府立中央図書館における点字図書等の充実、子どもの状況に応じたおはなし会等の実施等）
5. 子どもに本を届けるネットワークの整備（特別貸出用図書セットの貸出、おすすめ本紹介冊子の作成等）
6. 子どもの読書活動を進めるための組織の設置（庁内子ども読書活動推進会議（WG）、大阪府社会教育委員会議）
7. 電子書籍の活用検討

【発達段階ごとの特徴と取組の柱】

読書に関する発達段階ごとの特徴として、以下の表のような傾向があることを踏まえつつ、乳幼児の時期、小学生の時期、中学生の時期、高校生の時期の子ども一人一人の発達段階や生活の場に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備をするために、大阪全体で取組むことが重要となります。

なお、支援が必要な子どもについても、一人一人の状況に応じて、読書環境の整備のための具体的な方策に取組みます。

5つの柱	ことばを知り	本にひかれ	本に出会い	本に親しみ	本に学ぶ
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> 文字やことばを知る ことばを聞きとる 	<ul style="list-style-type: none"> 本で物語を楽しみたい 本で何かを知りたい、調べたい 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい本と出会う 新たな発見ができる本と出会う 	<ul style="list-style-type: none"> 読書を身近に捉える 自ら好きな時に自由に本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> 本の内容を読み取る 必要な情報を活用する
乳幼児の時期	<ul style="list-style-type: none"> 生後4か月頃からまわりの大人の読み聞かせを通して、少しずつ様々なことばを知ることができます。そして、もの・場面・絵を結びつけていきます。 4歳頃から文字に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと触れ合いながら絵本で読み聞かせをすることにより、絵本に興味を示すようになります。 4歳頃から、文字に興味を示すこと等により、自分で本を読もうとするようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> まわりの大人が、子どもの反応を見ながら、読書環境を提供することにより、子どもが楽しいと思う本と出会うことができます。 子どもの身近なものや食べる・寝るといった動作などの本に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが手の届く場所に本がある読書環境の中で、子どもは、自分が読みたい本について、まわりの大人に読み聞かせをせがんだり、自分で繰り返し読もうとします。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の絵で想像力を育てたり、読み聞かせで聞いたことばを真似したり、ごっこ遊びをすることで、自分の感動を自分のことばで表現することの楽しみを感じるようになります。
小学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、語彙の量が増え一人で本を読むことができるようになります。 中学年になると、更に語彙の量が増え、推測しながら文意をつかむことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や家族、学校の先生など身近な人からの影響が大きく、身近な人に勧められた本に興味を持ちます。 アニメや漫画の原作や関連の本にも興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の身近な場所である家や、学校・地域の図書館で本を選ぶ傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら沢山の本を読むようになっていきますが、中学年になると、個々の状況により読書活動に差がでてくる場合があります。 子ども一人一人の読む力に応じて読書量や読書の種類に変化が生じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字で表された場面や情景をイメージできるようになります。 課題解決のための読書活動を通して読解力や発表力が育まれていきます。
中学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> 多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになります。 自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人との関係よりも、友人関係に自ら強い意味を見出す時期であるため、友達から紹介された本や、ドラマや映画の原作や関連の本に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動範囲が広くなり、本屋で、本を選ぶ傾向がある一方で、図書館で本を選ぶことが少なくなる傾向があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期では、部活動や塾など、高校生の時期になると、部活動や塾に加えてアルバイトなどにより、読書をする時間がないという傾向が顕著に現れ始め、読書から離れる子どもが多くなります。 読書活動を継続している子どもは、学校の休み時間を使って本を読んだり、自分が読みたいときに、スキマ時間を使って本を読んだりします。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期・高校生の時期の多様な読書活動を通して、理性と感性が磨かれるとともに、社会生活で必要となる相手の言葉を理解し、自分の気持ちを的確に伝える語彙力を育むことができますようになります。 多角的な視野で世界を認識する力が育まれていきます。 知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことができますようになります。
高校生の時期	<ul style="list-style-type: none"> 読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期より、インターネットやメディア等の影響を受けやすくなり、SNSや、インターネットで気になった本に興味を示すようになります。 自分が好きな作家の本に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期より更に行動範囲が広がり、中学生の時期と同様に本屋で本を選ぶ傾向にあります。 インターネットを利用して、本を探したり、選んだりすることもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期では、部活動や塾など、高校生の時期になると、部活動や塾に加えてアルバイトなどにより、読書をする時間がないという傾向が顕著に現れ始め、読書から離れる子どもが多くなります。 読書活動を継続している子どもは、学校の休み時間を使って本を読んだり、自分が読みたいときに、スキマ時間を使って本を読んだりします。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期・高校生の時期の多様な読書活動を通して、理性と感性が磨かれるとともに、社会生活で必要となる相手の言葉を理解し、自分の気持ちを的確に伝える語彙力を育むことができますようになります。 多角的な視野で世界を認識する力が育まれていきます。 知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことができますようになります。